

# かけはし

黄の2組

～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、黄の2組で展開されている遊び、その遊びが始まったきっかけなど、ご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

1学期から、さまざまな身近な素材（お菓子の空き箱、ペットボトル、牛乳パックやサランラップの芯など）を使って遊び、それぞれが思い思いにつくったものを遊びに取り入れてきた子どもたち。手づくり楽器をつかったり、出合った昆虫をつかったりと、身近な素材をいかして、いろいろな工作をしてきました。「先生、ゼリーのカップは遊びに使えるかな?」「牛乳パック、持ってきたよ」などと、おうちから、さまざまな身近な素材が集まる毎日です。今は、さらに、素材のもつ特性にも着目し、それらをいかした遊びをつくりだせないかと、黄組みんなまで探究中です。

## ★ 身近な素材をリユース クレーンゲーム ★

身近な素材で工作をして遊んでいた子どもたちから、始まった遊び。

「どれがいいかな?」



「ピンクの飛行機がとれますように…」

「この箱（段ボール）大きいから、みんなで遊べるおもちゃが作れるよ」「みんなで遊べるゲームをつくらうよ」「大きな箱の中からおもちゃをとるゲームはどうか?」「クレーンゲームにしよう」と、クレーンゲームづくりが始まりました。クレーンの仕組みは、赤組の頃から遊んでいた魚釣りゲームの磁石とクリップを使うことにしました。ゲームの景品は、「お菓子にしよう」「マスクがいいよ」…いろいろ考え、紙飛行機に決まりました。日々、紙飛行機づくりにも励んでいます。

## ★ 身近な素材をリユース お星さまタッチゲーム ★

牛乳パックで遊んでいた子どもたちから生まれた遊び。



「ポイントつけようよ!」

ある日、男の子たちが牛乳パックの中に腕を入れて動かし、周りの友達がその牛乳パックをたたくという遊びを楽しそうにしていました。しかし、しばらくすると、たたく力が強いと、お互いに手が痛くなるという問題が発生。みんなで話し合った結果、「たたく」遊びではなく「タッチ」する遊びに変えることになりました。そして、本当にタッチすることはできないけど、いつかタッチしてみたいものをモチーフにして遊ぼうというアイデアが子どもから出され、「お星さまタッチゲーム」が生まれました。

## ★ 身近な素材をリユース ドーナツ屋さん おむすび屋さん ジュース屋さん ★

身近な素材で工作をして遊んでいた子どもたちから、始まった遊び。



「お持ち帰りですか?」

以前から「おままごと」が大好きだった子どもたち。保育者をお客さん役にして、入れ替わり立ち替わり、お皿いっぱい盛り付けた料理を運んでくれました。「こんなおいしいお料理を先生だけが食べているなんてもったいない」という保育者の言葉に、子どもから「お店屋さんにしてお客さんが来られるようにするのはどう?」という提案が! 「いいね」「どんなお店にする?」…話し合いの結果、「ドーナツ」と「おむすび」のお店になりました。商品の「ドーナツ」と「おむすび」は、紙の特性『いろいろな形を作れる』『のりで貼ることができる』をいかし、新聞紙と折り紙を使って子どもたちが手づくりしました。

## ★ 秋の自然物をつかって ドングリぴたりつかみどりゲーム ★

大学キャンパスへのお散歩や愛宕山での自然体験学習で見つけた自然物をつかった遊び。



「♪どんぐりコロコロどんぶりこ～」たくさんのどんぐりの中に両手を入れて、クルクルとかき混ぜながら感触を楽しんでいる子どもたち。「いっぱいとれたよ」「いくつつかめたか数えてみよう!」そんな遊びがクラスみんなに広がっていきました。

## ★ 秋の自然物をつかって どんぐりコロコロ ★

大学キャンパスへのお散歩や愛宕山での自然体験学習で見つけた自然物をつかった遊び。



「これをつけたらどうだろう?」

教室のいろいろな場所でどんぐりを転がし、楽しそうに追いかける子どもたち。しかし、教室のあちこちに、どんぐりが散らばって、歩くのも、集めるのも大変!そこで、どんぐりを転がす場所をつくらうと、「どんぐりコロコロ（仮称）」をただいま製作中です。段ボールを土台にし、子どもたちが家から集めてきた空き箱やプラスチック製のスプーンなどいろいろな素材を使ってトンネルやデコポコ道などつくっています。